

令和2年11月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,487	8,753	4,450	4,303	△ 13	△ 26
2 千 石	4,066	6,823	3,439	3,384	3	14
3 内 山	5,815	7,975	4,222	3,753	1	0
4 大 和	3,457	6,717	3,313	3,404	△ 1	0
5 上 野	7,405	15,512	7,700	7,812	△ 8	△ 5
6 高 見	7,406	13,415	6,399	7,016	△ 5	△ 8
7 春 岡	7,044	11,104	5,813	5,291	△ 3	△ 13
8 田 代	11,552	21,918	10,585	11,333	△ 8	4
9 東 山	10,467	19,482	9,614	9,868	△ 1	△ 30
10 見 付	4,324	8,079	4,083	3,996	2	17
11 星 ケ 丘	3,564	6,940	3,145	3,795	9	△ 4
12 自 由 ケ 丘	3,535	7,143	3,250	3,893	△ 4	△ 6
13 富 士 見 台	6,515	15,334	7,111	8,223	15	34
14 宮 根	3,901	8,218	3,907	4,311	14	26
15 千 代 田 橋	3,723	8,427	3,965	4,462	△ 1	△ 16
千 種 区 計	88,261	165,840	80,996	84,844	0	△ 13
R1.11.1	87,838	166,005	81,136	84,869	116	142
対 前 年 比	423	△ 165	△ 140	△ 25	△ 116	△ 155
名 古 屋 市	1,128,571	2,327,689	1,148,811	1,178,878	394	△ 449
愛 知 県 (R1.10.1)	3,268,776	7,541,123	3,771,870	3,769,253	△ 1,075	△ 4,145

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	85	107	△ 22	890	881	9

【参考】

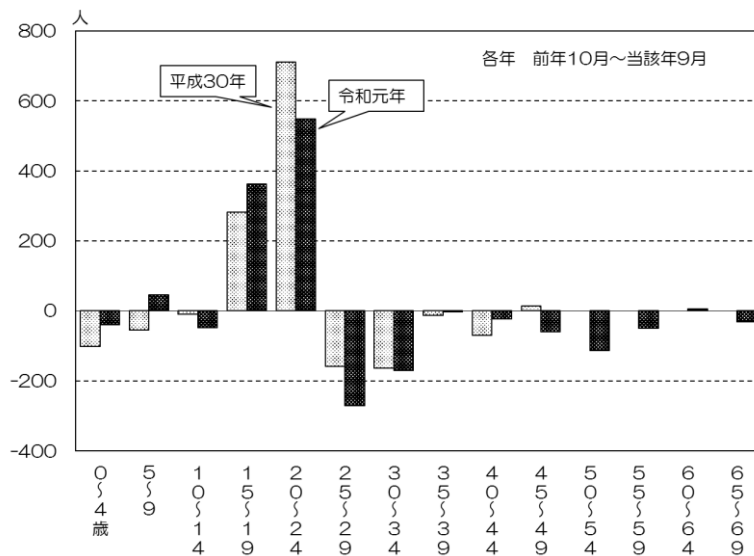
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の 5 歳階級別社会増減数の推移

令和2年11月1日現在の千種区の世帯数は88,261世帯となっており、人口は13人減の165,840人となっています。今回は愛知県人口動向調査（名古屋市分）に基づいて、本区の年齢5歳階級別社会増減数（転入数－転出数）をみていきます。

図1: 年齢5歳階級別社会増減数（平成30年と令和元年の比較）

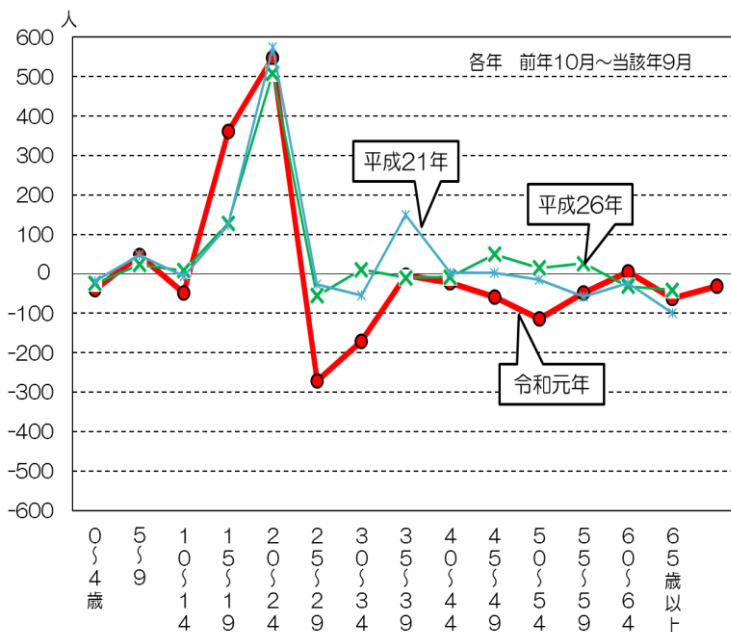


平成30年と令和元年の年齢5歳階級別社会増減数（図1）を見てみると、いずれも15歳～19歳、20歳～24歳で大幅な社会増（本区への転入超過）がみられます。

千種区は大学が多く、在学中の年齢である15～19歳、20～24歳の範囲で本区への転入が多くなっています。

25～29歳、30～34歳では就職のために区外へ転出してしまい、社会減の傾向にあります。

図2: 年齢5歳階級別社会増減数の推移



平成21年から令和元年までの5年ごとの年齢5歳階級別社会増減数の推移（図2）をみてみると、15～24歳に本区に転入し、25～29歳で転出するという傾向に大きな変化はみられません。20～24歳の社会増減数は、平成21年から令和元年にかけて10年間、各年500人以上の社会増傾向にあります。一方で、25～29歳の社会減傾向は令和元年に大きくなっています。

また、その他の年代について、10年間を比較すると、社会増減数は30代以降についておおむね減少傾向にあります。